



ひっぴだより

NO4. 2013. 6. 28

今年度になってから、ひっぴの森を過ごす日の朝、森の定点観測の早寝撮影をしています。最近では、曇りの日には薄暗く感じるほかに、時々緑が茂っています。入園のついでに、あつた4月10日には森の向こうの別荘の空もいかり早でいるくらいに葉が落ちていました。四季の変化は自分なりに感じているつもりで、定点観測をとおして、森の移り変わり、より一層鮮明に感じられるようになりました。

この3ヶ月間、この子も森の移り変わりに変化しています。場所にも仲間にも字にそとでんぐりさんたちも、それぞれのうたで自分表現し、本領(?)を発揮はじめています。朝や帰りの集まりの時にも、いかり座って絵本を見たり歌や遊びを楽しくしていたこの子から、だんだん大人。最近、集まりの前にいいたことや、何の他のこの子に、いきたる、集まりの最中でも立ち歩いたり、集まりに隣の子としゃべりたりを好むこともあります。私たちが、だんだん大人の子のこの様子の変化を「落ち着きかなくなった」と捉えておらず、「緊張感」がやわらぎ、自己表現を始めるのだと捉えています。その上で、「今は絵本の時間だ」といったように、その時の状況もいかりと伝えています。

子もこの移り変わりを善悪で捉えてしまうと、大人の都合に子どもを従わせることにつながってしまいます。「泣く」ということも善悪で捉えたくないこの一つです。子どもは泣くことを「悪」と捉えずに「なんかに泣かせないよう」といかに泣き止ませよう」という関わりになりがちです。2歳児の涙は言葉です。「泣く」といふのは「しゃべる」といふのと同じことです。泣くという自己表現を抑え込められず、泣くことで涙を堪える表情は、痛々しく感じることがあります。2歳児の頃の涙は、例えは、お母さんに別れることなどの不安や不快が主なきっかけとなります。3歳児になると、それに加えて、友達との関わりの中で、感じる悔しさや悲しさなども涙の要因となります。成長するにつれて、泣くだけでなく自分の気持ちや十分に伝わらないということも理解し、「あのね、うんね…」と言葉で気持ちを語り出そうとします。

幼少期にたどり泣くこと、そしていかに誰かに受け止めてもらう経験を積み重ねることは、自己肯定感を育むのにとても大切なことです。「たどり泣いた」というペースがいかりあり、あつたはじめて泣くこと以外の自己表現も豊かになるのではないのでしょうか。

朝のお別れの時など、だんだん大人が涙を流している光景に出くわした時には、「たどり泣いていいんだよ」、そんな言葉を心の中でいかりかけてあげてくたさい。おおきくみの子もたどり泣いている時にはじゅくりその話に耳を傾けてくたさい。ひっぴが、子どもたち安心した、たどり泣ける場であつた方がいいなと思っています。

： 慎之介



モミジのたね

おおきくみだより

雨が降るごとに緑が濃くなる ひっぴの森。 茂みも深くなってきました。緑が濃くなり始めたころ、おおきくみでは「森のフィールドビンゴ」をしました。「森のフィールドビンゴ」とは、森の中にある 生き物や植物を見つけたら「マジック」のEPをつけていくというゲームです。今回は、ユニー組のペアになりました。約束は「競争ではないですよ。」「1人で見つけるのではなく2人で見つけようね。」「わからなかったら大人に聞いていいですよ。」です。ペアは (海国・裕太) (裕太・い美) (宇大朗・奏) (泰雅・悠太) (清月・遼香) (海斗・墨) (耀・陽震) (宗悟・明日香) (愛莉・理央子) (昊瑛・俊林) (せつ・翔次朗) として、見つけるものは、(ツルツルの木枝) (とりの声) (せみのめけがら) (うさぎのふん) (とげのある木) (松ぼっくりがついている枝) (く) (自分の手より大きい葉っぱ) (キツツキのあけた穴) の9つです。少し難しい探しものです。

ちいさい人に優しい声をかけながら、ゆっくり歩いてくれる おおきくみ人たち。「キツツキの穴、知ってる!」と走って行くペア。手をつないで、森の中へ入っていく後ろ姿のかわいいこと!

この日は、料理の日でもありました。スタートしてのんびり歩く(せ・翔)ペアは (明)「お米料理、エプロンする?」 (せ)「うん。もってきたよ。お米ちゃん?」 (明)「もってきたけど... たのしみだね」 (せ)「うん」 おしゅべりしなげらの森歩きは、楽しそうです。(海・墨)ペアは、先に進んでいく(墨)に「待ってーあつたよー」と(海)の声。(宗・明)ペアは (明)に「〇って一回書けばいいよ」とアドバイス。でも、いっぱい〇を書きたい (明)に「あーいっぱい書いて、あつたが... でもいいか。」とちいさい人においしさを伝える。おおきくみ人います。長い時間、森の中を歩きました。最後には、みんなが「ここに〇〇があるよ」「あつたに〇〇があつたよ」と教えあいつながら、楽しんだのでした。

そして、みんなが全部見つけてから、それぞれのペアが前に出て「どれを見つけたの?」とむずかしかったですか?の質問にこたえました。(宇・奏)ペアは、自分たちの出番の前に「オレたちはこれを見つけたんだよ」とユソユソと打ち合わせ。(裕・い) (宗・明)は、発表の時も手をつないで、ちいさい人をサポートします。おおきくみ人が、ちいさい人を、守っている姿、教えている姿... そんな光景をたくさん見かけました。一歩一歩になることで、相手のことを思いやり、楽しみを共有し、相談し、じゅくりと関わりをもった、素敵な時間でした。

おおきくみでは、リレーや運動会ごっこなどの、勝つ負けるなどのゲームもあります。でも、そこで勝つことを一番に求めるのではなくて、どうしたらちいさい人たちと一緒に走れるかと相談したソ、出来なかったら、お友だちと走ってもいいですよと伝えています。

みんなが過ごす時間が、ひとりひとり、楽しかったと思える時間であつた、ほいほいと思うのでした。

(： 敬和朗答)

： 美穂

お知らせ

保護者会を開きます。万障お繰り合わせで出席をお願いいたします。

日時 7月9日(火)

場所 メインホール

おおきくアート日 7月11日(木)

えりんこたいそう日 7月10日(水)

おおきく避難訓練 7月1日(月)に予定しています。

7月2日(火)は、遠出を予定しています。近くにおられたら、割れいお知らせいたします。

蒸し暑い日も増えてきました。夏場のお弁当の中味や保冷剤使用など、ご配慮いただきありがとうございます。

ありがとうございます。

お泊り会 として個人面談への参加、ご協力をありがとうございます。一フーフの行事が子ども達、保護者の皆さまの居場所を育む時とになったらいいな...と願っています。これからも大切な時を、共有していきます。



ぴっぴレシピ Note「じゃこ 塩昆布のふりかけ」

今月は、ぴっぴランチお馴染みのヘルシーふりかけです。

材料 じゃこ 30g
塩昆布 20g
かつお節 20g (だしを取ったあと乾かしたものが充分)
ごま 大2

材料をボールに入れて和えるだけです。

冷蔵庫で1ヶ月保存可能です。

ぴっぴの森の小鳥たち (6月: オオルリ)

高い木の梢から美しい声を響かせるオオルリ。

「ヒーリッ ポピリィ ポピー ジジジ...」 「ヒーリィリリリィ チチチ♪」

高音から少しづつ音がさがっていく。最後につぶやくような「ジジジ」... チチチ... などと主音×ロディと違って低い音が特徴的です。

その声は、おもわず、身を仰いでしまうほど美しく、ウグイス、コマドリなどと並んで日本三大鳴鳥といわれるほどです。

ぴっぴでは広葉樹の高いモミの木にとまってさえずります。森の木立の中で子どもたちと出会ったこともあります。

木立の中だと少し黒っぽい色がいま、少し青い色ともありますが、太陽の光が新緑にあたると、うっとりするほど美しい瑠璃色をしています。

声を聞いた日も、姿をみることができた日も、なんだか嬉しくなってしまう。「幸せの青い鳥」です。

沢谷いに巣をつくることが多く、車道沿いと、湯い谷いなどでよくみつけることができます。



🌱 田畑でより

田植え遠足お疲れ様でした。あんなの雨は多分ないでしょう。それなのにみんなの苗を植えることができた。今根付き始めた苗には風にそよそよとうれしそうです。

前日のおおきいくみのしらかきの日、真田 宇太朗と^{アキ}アキが「こゝろに水がいっぱいある田植えできる?」「水が多すぎ」と言いつから雑草を抜いて「この草は外へ出さないとね」と手渡してくれました。石畳に2日間水を入れずにもてあそばさぬに「金井の水が引かず困った」と思っていたところでした。秦雅は「そりゃアキのせいで走ったら道が水に足がつかない。」「あんなの水の出口まで水が流れるようにしてやるから!」と、泥に運搬会で行おうと手配したそりゃアキのせいで水が流れるように川を作ってくれています。「後木場のせいであんなに足がつかないよな。アキじゃないと... あー無理!」とブツブツ言いつから金井も川を作り、水がどんどん出口へ流れ出しています。みずみずうちに田植え金井の水が川を流れてくれていることに。

毎年へ田植え活動を重ねていくうちに、子ども達は「仕事」を覚えています。田植えの時に水がたくさんあると苗がもぐってしまうやいな、雑草はどんどん伸びてしまふからなるべく外へ出してあげた方が稲のためによい... 言わなくても金井の中でのしめりや体験が根付いています。いつもびりびり度々土を掘り水を流して楽しんでる川遊びでさえ仕事に活かしてしまうその発想。田植えでは、楽しめたりから田植えの仕事をよくわかってやってくれていることとうれしいです。その夕まんまでしめり泥の中を歩いてから、つぼりきやかけこの泥に運搬会もして走り回ったり、田植えの泥はすっかり柔らかくどうどうにたって雑草も踏み込まれ、しらかきは万全! 最高の泥の状態で田植えの日を迎えることができて。田植えが初めてのもんぐりさん達はどんどん泥に入る人、ちょっといやだとなんとあがめている人色々でしたが、きっとお兄さんお姉さん達の泥にふりまがっていて、いつかよーしと入る日がやってくる。ゆっくりとその日を待ちましよう。

一方、びりびり森ではそのもんぐりさん達が中心になり、プランターに人参と赤カブの種まきをしました。左手に握りしめた種を右手でとくとまくのはアキがアキが難しいのですがそれでも丁寧に一粒ずつまいたり、一気にどどーとまいたり、それぞれ土の感触を楽しんでいました。その後の水やりはプランターがフーリンにたまりほどくり返し「うーうー」とおかげで今かわいい芽が顔を出し、毎回おおきくなあれとじょうろで水やりしています。これから少しづつ間引きから食べられるといいな。

田植え前の火田におおきいくみでまいた人参の種は、長いこと雨が降らずに干からせてしまい結局芽が出ませんでした。かうじて芽を出した白カブも、土がかわかうで水をやってもらって大きく育ちません。お天道さまのごきげんによし、全部うまくいくとは限らない食べものを作る仕事。こゝろもある..と現実を受け入れ、また少し先を見、次の準備をしていくことにしよう。(名前はおく、を略した。) : 美和子